

東久留米市デジタル田園都市国家構想総合戦略策定に向けた市民説明会におけるご意見

開催日時：令和5年10月14日(土曜日)10時～12時2分

参加者数：24名

資料 2  
令和5年 11月30日  
東久留米市

※市ホームページの「東久留米市デジタル田園都市国家構想総合戦略策定に向けた市民説明会」ページに掲載している「市民説明会 トークセッションにおける市民との意見交換 概要録」に  
各ご意見及び市の回答について詳細が示されているため、ご参照ください。(https://www.city.higashikurume.lg.jp/shisei/sesaku/keikaku/1023336/1023344.html)

No.	ご意見の概要	市の考え方や対応	
1	東久留米市には非常に大きな課題があるということがわかった。DX、GXどちらも重要な課題として取り組まれていく必要性が非常に大きく、私達の生活の身近なところに色々な課題が転がっている。	本市の強みや特色を活かして、総合戦略に掲げられた施策を推進することにより、DX・GXの推進により好循環を促し、誰もが幸せを感じながら住み続けられるまちへ進化させていきたいと考えている。	
2	総合戦略では美しい話が沢山並べられ、そうだったら素敵だと思うが、これまでなぜできなかったのか分析すれば、面白い総合戦略になるのではないかな。		
3	地方創生の大きな課題が出生率の向上と東京への一極集中の緩和あるいは逆転ということだが、出生率がどんどん下がり、コロナにより東京への流入が若干減ったものの、また流入が増えている。これについて、失敗していることを認識し、なぜ失敗したのか分析が必要である。		
4	デジタルを活用したビジネスを検討してほしい。本市民説明会に参加するために、大手の設計・開発部門でどのようにDXを進めているのか、そして、まちのプレス屋を見てきた。この30年間で、中小企業で伸びたところはほとんどないが、そこはちょうど倍に伸びたようだ。世界に拠点を設けて、DXを進めているという説明を受けた。プレス工場は、昔は沢山のひとが働いていたが、今は少ない。これを受けて、デジタルビジネスを進めてほしい。		
5	DX や GX についてよく理解した。総合戦略は壮大な計画だが、東久留米市のポジショニングは、客観的に見て非常にいい環境となっているが、それを利用した計画があまりにもないので、寂しい感じがする。		
6	総合戦略推進への市民委員の参加	今日説明があった総合戦略の内容はパーフェクトだが、書くだけではなく、実践してほしい。そして、市民各層の代表を巻き込み、意見を聞いてほしい。直接声を聞いた方がいいと思うし、そこにこどもがいたら、なおいい。	意見を受け止め、今後の参考とさせていただきます。
7	国の動きに連動したまちの活性化の取り組み	国が進めているマイナンバーカードやキャッシュレスなどに連動した、まちの活性化をもたらす取り組みが謳われていない気がする。これを総合戦略の中に入れて欲しい。	キャッシュレスは、例えば、公共施設の使用予約はインターネット上でできるが、使用料は払いにいかなくてはならないので、そのような点について、利便性を向上させるべく進めていきたい。ChatGPTは、東京都のマニュアルを参考にさせていただき、庁内でトライアルを実施したところであるので、引き続き進めていきたい。
8	ChatGPTの利用	ChatGPTが登場し、100年に一度の劇的な革命が起きている。東京都をはじめ、全国で競うようにChatGPTが活用されているにも関わらず、総合戦略の中に記載されていないことに不安を感じている。	今後も、担当と鋭意調整し、実現できるように進めたい。
9	グリーン化の推進	近隣市では、早くから太陽光パネルが公共施設に設置され、東久留米市は遅れていたように思っているので、先に進めていただきたいと強く思う。	総合戦略29ページの「基本目標Ⅰ 未来志向で持続可能なまち」の具体的施策(3)に示すとおり、引き続き、省エネルギー化・再生可能エネルギーを推進していきたい。
10		数年前に、東久留米市の公共施設に太陽光パネルをつけてほしいという署名をした記憶があるので、それまで太陽光パネルはなかったと思うが、東京都に追随しているだけではないのか。	
11	太陽光パネル設置に至る経緯	12年前に、小学生たちが東久留米市に太陽光発電を導入するよう依頼したところ、「市役所は太陽光パネルを載せるほどの強度がないからできない」とのことだったのに、市議会で検討されると導入されたが、どうなっているのか。	強度の問題があったが、技術の進歩に伴い太陽光パネルも軽量化されているため、ここで導入を進める際に問題はなかった。
12	蓄電池の設置場所	福島第一原子力発電所1号機が、なぜ今もって手を入れられないのか。先生方や作業をされている方が上に持っていきよう言ったのに、そうしなかった。一方で、東久留米市の蓄電池は地下にあるが、大雨や地震があったとき、水は地下に流れる。福島でのことがまだ反省されていない。	蓄電池設備の設置場所として、外部専門家からのご意見も踏まえ、本市の場合は地下が最適と判断したものである。
13	教育DXに伴う環境整備	こどもたちがタブレットを一人一台ずつ支給され、コロナ禍においてはオンライン授業や学校に通えないこどもへの教育という恩恵があったが、実際にこどもの生活に活かされているのか。タブレットを自宅に持ち帰らせているのか、持ち帰って自宅でも活用できる環境があるのか。また、東久留米市は低年齢のこどもがいる家庭の転出が多いが、この問題は、教育と切り離して考えられないと思う。今後は、教育環境の充実を進めていく必要がある。そして、なぜ転出していくのかという分析を行ってほしい。	中学生の生徒会サミットへの参加をはじめ、各小学校や各中学校、児童館に足を運び、直接的な意見を伺っているところである。教育環境の整備や妊娠期からの切れ目のない支援についていただいた指摘は、大切な視点だと思っているので、限られた財源や人的資源の中で、こういった形で予算配分していくのか、引き続き様々な声を聞きながら、力を入れていきたい。そして、こどもたちの意見についても、引き続き、聞いていきたい。
14	学校給食を取り巻く課題	学校給食が担う課題は非常に大きい。例えば、東久留米市だと、農業振興と給食のタイアップで地産地消が可能になるということでは、給食に農業野菜をたくさん使ってほしい。それが使われている割合をどこで検証されているのか、それを中間で調整する機能があるのか、また、農業者が満足してそれに取り組んでいるのかコーディネートする役割が必要ではないか。そして、給食で出される膨大な生ごみを資源化する取り組み、そして、それが有機堆肥として農家に提供される循環型の取り組みが、消費者やこどもたちへの教育、そして循環型社会の形成に繋がっていくと思うので、身近なところで取り組めるDXとGXを考えてほしい。	
15	こどもの意見聴取	東京都がこども基本条例を制定し、こどもの意見を受け止め、こどもをひとりの主権者として権利を認め、存在であると規定している。これを、どのようにまちづくりに活かしていくのか。こどもたちがそれを実感できていないと、住みたいと思える未来の市民を形成することは難しいと思う。こどもが、どういう公園が欲しいのか、どういうものが公園にあつたらいいと思うのか、どういう学童にしたいのか、どういう児童館がいいのか、こどもの意見を行政の中に取り入れることができる場を設けてほしい。	
16	子育て関連の助成や支援	東京都の助成である「とうきょうママパパ応援事業」について、子育てが困難である、また、ひとりで子育てをしないといけない、それが悲惨な状況に発展することもあるので、出産前に安心して産めると考えるよう啓蒙や宣伝をしてほしい。助成や支援をフルに活用できるよう積極的に発信してほしい。	
17		少子化の今、こどもたちが大人になり、こどもができる時、どれほどの人口が増えるか。子育てをしながら仕事できたのは、やはり、周りの力、会社、夫、学童、公園、そういうものが揃っていたから。しかし、私はすべて揃っていたわけではなく、その中でやってきた。底辺をもっと考えないとならない。	
18	サテライトオフィスの活用	リモートワークをする労働者が多いが、駅前のサテライトオフィスをもっと整備したらどうか。色々な形に展開できると思うが、東久留米市の位置づけを踏まえたオペレーションが不足している。	・サテライトオフィスは、東京都が東久留米駅前に設置しており、視察をしたが、市民のみならず、近隣からも来ていただいております。大変活用されていると聞いています。労働環境の整備についての視点も、大切にしていきたい。 ・総合戦略34ページの「基本目標Ⅱ 人にやさしく快適に暮らせるまち」-「具体的施策(6)暮らしを支えるデジタル化の推進」の個別戦略(事業)欄において、サテライトオフィスの導入検討について追加した。

19	市職員のデジタルスキル強化	DXを進める上で、窓口でシステムなどにトラブルがあったとき、対処できるひとが東久留米市職員の中で何人いるのか。私は50年前に会話対応パソコンから使い始めているが、トラブルがあったとき、どれほどの人数の対応をしてきたか。そういうことができてはじめて、デジタル化と言える。私が東久留米市に電話したとき、何分待たされたと思うか。要求することは頑張るが、どれだけの市職員が応えられるのか、非常に心配である。子育てやまちの開発など勿論手伝いたいと思うが、トラブルが起きたときに何人の市職員が対処できるかを踏まえて、進めてほしい。そうでないと、今の国の現状と同じである。	DXやGXを進めていくのであれば、いかに人材を育成していくのか検討する必要がある。また、総合戦略の39ページに示しているとおり、市だけで達成できるものではなく、市民や事業者の方々と連携しながら、好循環を生み出していくことが狙いである。
20	高齢者人材の活躍	総合戦略10ページ・11ページでは、なぜ60代以降については示していないのか。シルバー人材センターに所属しているが、依頼される仕事は、病院の掃除だ。コロナ禍でもそうだったが、清掃の依頼がシルバー人材センターに入ってくる。私はパソコンを使えるが、なぜデータ管理などの仕事を高齢者に依頼しないのか。こどもはすぐに増えず、人口は増えないのだから、高齢者をいかに活かすかを考えてほしい。	総合戦略(素案)10ページ・11ページでは、こども・若者・子育て世代に焦点を当て人口動向を分析しているため、60歳代以降について言及していないが、総合戦略(素案)15ページでは、あらゆる世代の転入者数の増加を、より一層加速させるよう取り組みを進める必要がある旨、記載している。
21	窓口対応への不満	デジタルを活用してアナログな対応をしてサービスを向上させるとのことだが、窓口対応の現状は異なる。東部地域センターの印刷機でA3判を500枚刷ったら400円かかった。西東京市では、2,000枚刷っても40円である。このことを市に対して意見したところ、約一週間後に来た文書には、「西東京市は特別に安く、東久留米市は他市と比べると割安になっている」と書いてあった。そこで、小平市、清瀬市に電話をかけ、100枚ごとの費用について一覧表を作成したところ、東部地域センターだけA3判のみ2倍の費用で、A3判以外でも割高であった。調べもせずに誤ったことを伝える窓口は、非常に困ったものである。	東部地域センターは、本市指定管理者により管理運営されている。東部地域センターにおける印刷費用が、他市と比較して高い場合があるというご意見を受け止め、改めて、担当課を通じて指定管理者に伝える。
22		各学童保育所の児童数と待機児童数を教えてほしいと依頼したところ、「数字は月ごとに変わる上、東京都がとりまとめた表を作成中のため、そちらを見てほしい」とのことだったので、「東京都の表は、総数しか出ていないのでは。どの時点でもいいから教えてほしい」と言ったが、教えてもらえなかった。このことについてご意見箱に書いたら、その日の夕方に電話があり、「これから口頭で数字を教えます」と言われたが、外出中であったため、今は無理であることを伝えた。後日、電話をしたら、「今は表ができていない」と話が通っておらず、これまでの経緯を説明したところ、「それでは3時過ぎに電話をかけてほしい」と言われた。再度電話をかけ、ようやく口頭で教えてもらえたが、デジタル化を進めるというのであれば、表くらいすぐに作るべき。どこがデジタル化なのか。デジタル化の推進を重点事業として位置づけないと国の交付金がとれないから、総合戦略を作成しているのだから、地方自治とは何かを職員が学習する場が必要ではないか。	担当課によると、各学童保育所の児童数と待機児童数については、公表しているものがなく、時間を要したとのこと。
23	マイナンバーカード関連のトラブル	東久留米市で、マイナンバーカードに関するトラブルの件数が公表されていない。マイナンバーカードを作ってくださいということしか出ていない。私が病院に行くと、機械はあるが、マイナンバーカードを使っているひとはいない。このようなことを、もっと丁寧に考えて、要求してほしい。	本市民説明会の中で市長から回答したが、マイナンバーカードの運用において、本市では、コンビニ交付での誤交付や誤った紐づけは発生していない。
24		マイナンバーカードについては、百のうち何パーセントかはトラブルがあるだろうが、ほとんどは問題がなく、良いことがあるということを、市側が市民に徹底して周知する必要があるのではないか。	意見を受け止め、今後の参考とさせていただきます。

市民説明会を踏まえたオンラインによる意見募集でのご意見

No.	ご意見の概要	市の考え方や対応
1	原付バイクのご当地ナンバーを作ってほしい。「ブラック・ジャック」は盗難の可能性があるので、るるめちゃんをメインにしたら良いと思う。ご当地ナンバーをつければ、より東久留米市に愛着が湧いて転出減、転入増に繋がる可能性がある。	原動機付自転車のご当地ナンバープレートの交付要望について、担当課に伝えた。